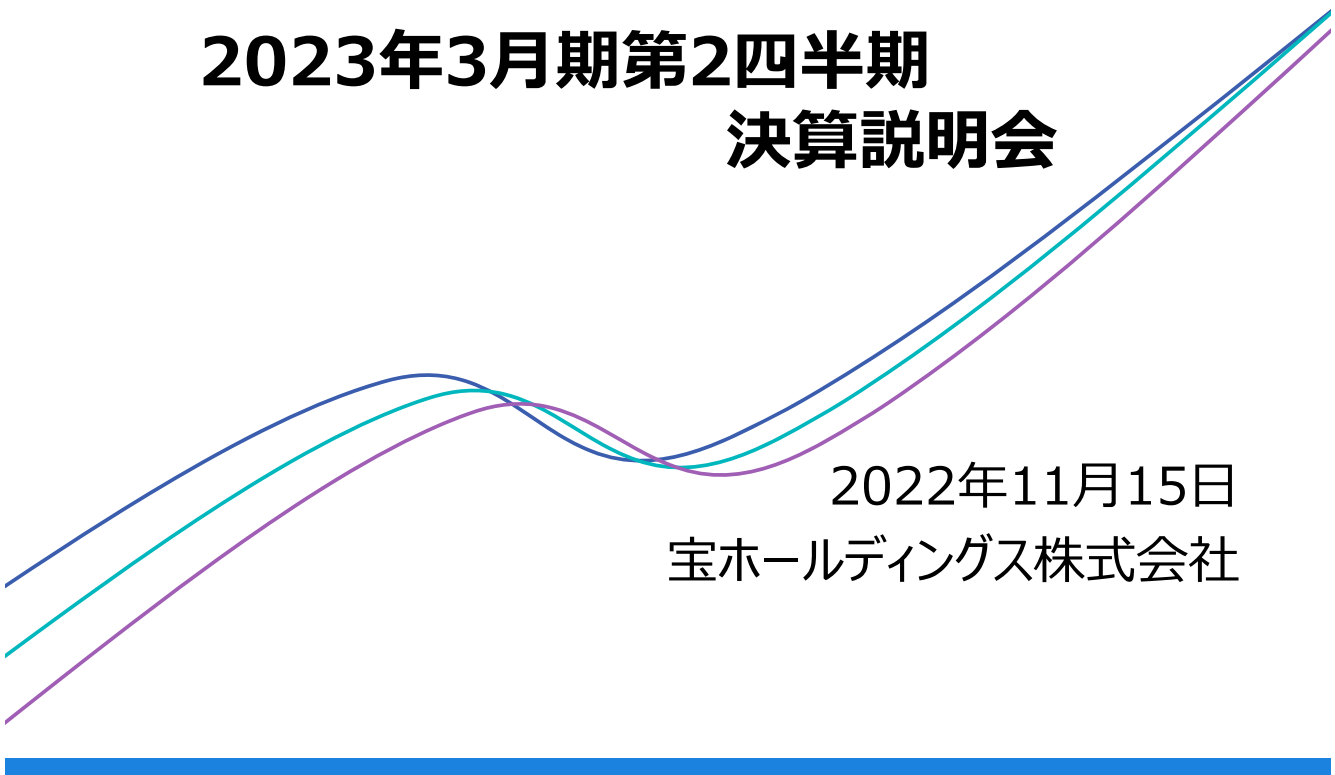


2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022年11月15日
宝ホールディングス株式会社



本日の内容

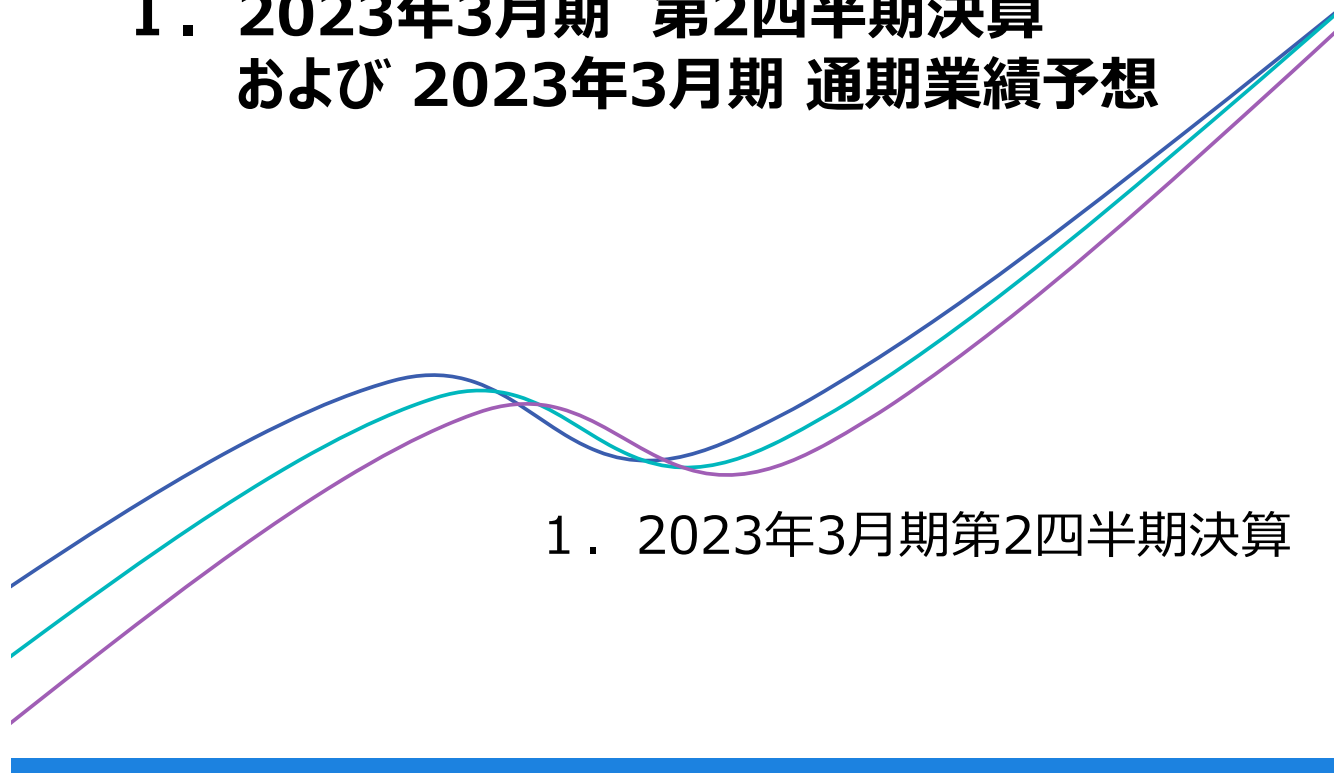
I. 2023年3月期 第2四半期決算 および 2023年3月期 通期業績予想

1. 2023年3月期 第2四半期決算
2. 2023年3月期 通期業績予想

II. 2023年3月期事業戦略

1. 宝酒造インターナショナルグループ
2. 宝酒造
3. 宝グループのサステナビリティ

I. 2023年3月期 第2四半期決算 および 2023年3月期 通期業績予想



2023年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

連結損益計算書

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期実績	前期比		8/4予想比		為替レート 影響額 前期比
		増減	率(%)	増減	率(%)	
宝酒造	61,820	4,187	+ 7.3	▲ 111	▲ 0.2	-
宝酒造インターナショナルグループ	63,730	16,995	+ 36.4	135	+ 0.2	5,525
タカラバイオグループ	32,587	1,035	+ 3.3	4,843	+ 17.5	1,708
その他	15,577	952	+ 6.5	176	+ 1.1	-
調整額	▲ 9,435	▲ 104	-	236	-	-
売上高	164,279	23,066	+ 16.3	5,279	+ 3.3	7,234
売上総利益	57,879	3,538	+ 6.5	2,579	+ 4.7	
販売費及び一般管理費	38,264	5,540	+ 16.9	▲ 335	▲ 0.9	
宝酒造	2,059	▲ 211	▲ 9.3	502	+ 32.3	
宝酒造インターナショナルグループ	5,658	1,354	+ 31.5	88	+ 1.6	
タカラバイオグループ	10,870	▲ 3,234	▲ 22.9	2,229	+ 25.8	
その他	1,243	213	+ 20.8	36	+ 3.0	
調整額	▲ 216	▲ 123	-	58	-	
営業利益	19,614	▲ 2,001	▲ 9.3	2,914	+ 17.5	
経常利益	19,972	▲ 1,911	▲ 8.7	2,772	+ 16.1	
特別利益	967	▲ 401	▲ 29.3	717	+ 287.1	
特別損失	125	▲ 2,728	▲ 95.6	75	+ 150.5	
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,873	823	+ 8.2	1,773	+ 19.5	

※前期の特別損失には、宝酒造の製品自主回収費用1,567百万円、タカラバイオグループの固定資産圧縮損1,188百万円を計上

2023年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

連結貸借対照表

(百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	増減		2022年3月末	2022年9月末	増減
流動資産	232,323	233,028	705	流動負債	79,151	62,892	▲ 16,258
現金及び預金	80,445	67,075	▲ 13,370	支払手形及び買掛金	20,973	21,237	264
受取手形及び売掛金	70,260	76,388	6,127	借入金・社債	15,497	4,792	▲ 10,704
棚卸資産	72,643	79,582	6,939	その他	42,681	36,863	▲ 5,818
その他	8,975	9,983	1,008	固定負債	58,730	59,063	332
固定資産	130,114	133,244	3,129	借入金・社債	35,248	35,171	▲ 76
有形固定資産	79,747	83,771	4,024	その他	23,482	23,892	410
無形固定資産	15,360	16,366	1,005	負債合計	137,882	121,956	▲ 15,926
投資その他資産	35,006	33,106	▲ 1,900	株主資本合計	163,976	166,954	2,977
資産合計	362,438	366,273	3,835	資本金・資本剰余金	15,725	15,144	▲ 580
				利益剰余金	149,933	153,492	3,558
				自己株式	▲ 1,682	▲ 1,682	0
				その他包括利益累計額	16,443	28,405	11,961
				非支配株主持分	44,135	48,957	4,822
				純資産合計	224,555	244,317	19,761
				負債純資産合計	362,438	366,273	3,835

2023年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	増減
営業キャッシュ・フロー	11,798	7,231	▲ 4,566
投資キャッシュ・フロー	▲ 12,066	▲ 9,553	2,512
フリーキャッシュフロー	▲ 268	▲ 2,322	▲ 2,054
財務キャッシュ・フロー	▲ 5,620	▲ 21,625	▲ 16,004
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,802	4,208	2,406
現金及び現金同等物の期末残高	58,775	55,991	▲ 2,783

設備投資額、減価償却費、のれん償却費

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	増減
設備投資額（有形・無形）	8,811	3,513	▲ 5,298
減価償却費（有形・無形）	4,061	4,336	+ 275
のれん償却費	432	472	+ 40

2023年3月期 第2四半期（累計）宝酒造 業績

損益計算書（売上高～営業利益）

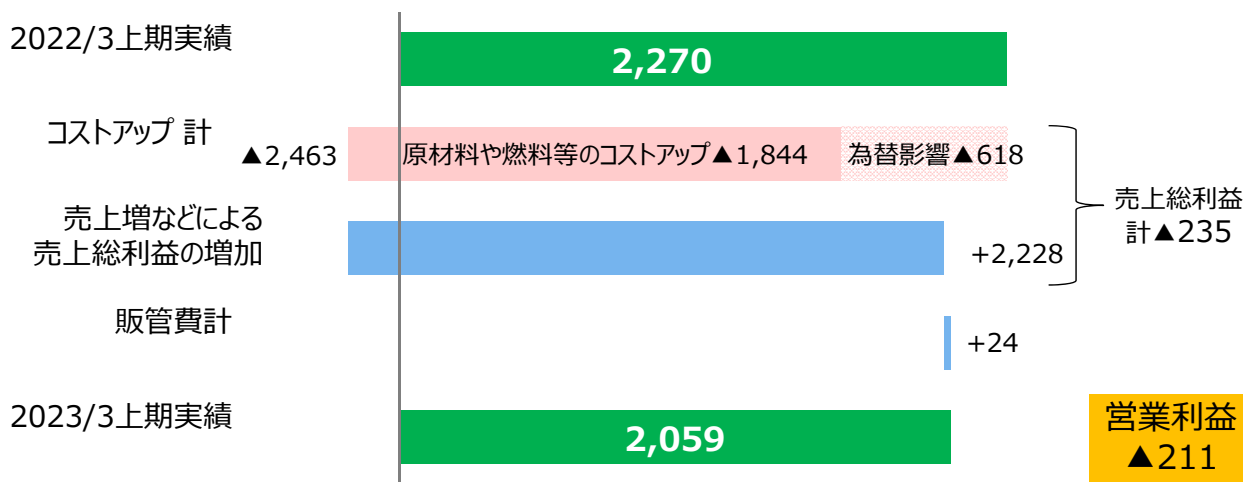
（百万円）

	2023年3月期 第2四半期実績	前期比		8/4予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
焼酎	19,998	682	+3.5	▲ 10	▲ 0.1
清酒	4,697	▲ 21	▲ 0.4	▲ 105	▲ 2.2
ソフトアルコール飲料	20,525	1,716	+9.1	▲ 296	▲ 1.4
その他酒類	2,823	293	+11.6	▲ 15	▲ 0.5
本みりん	4,710	452	+10.6	119	+2.6
その他調味料	4,321	242	+5.9	▲ 27	▲ 0.6
原料用アルコール等	4,743	821	+20.9	224	+5.0
売上高	61,820	4,187	+7.3	▲ 111	▲ 0.2
売上総利益	14,055	▲ 235	▲ 1.7	196	+1.4
販売費及び一般管理費	11,996	▲ 24	▲ 0.2	▲ 305	▲ 2.5
営業利益	2,059	▲ 211	▲ 9.3	502	+32.3

2023年3月期 第2四半期（累計）宝酒造 業績

コストアップ24億6,300万円を、売上の増加などによる売上総利益の増加や、販管費の減少で補うものの減益

◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示）（百万円）



2023年3月期 第2四半期（累計）宝酒造インターナショナルグループ 業績

損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

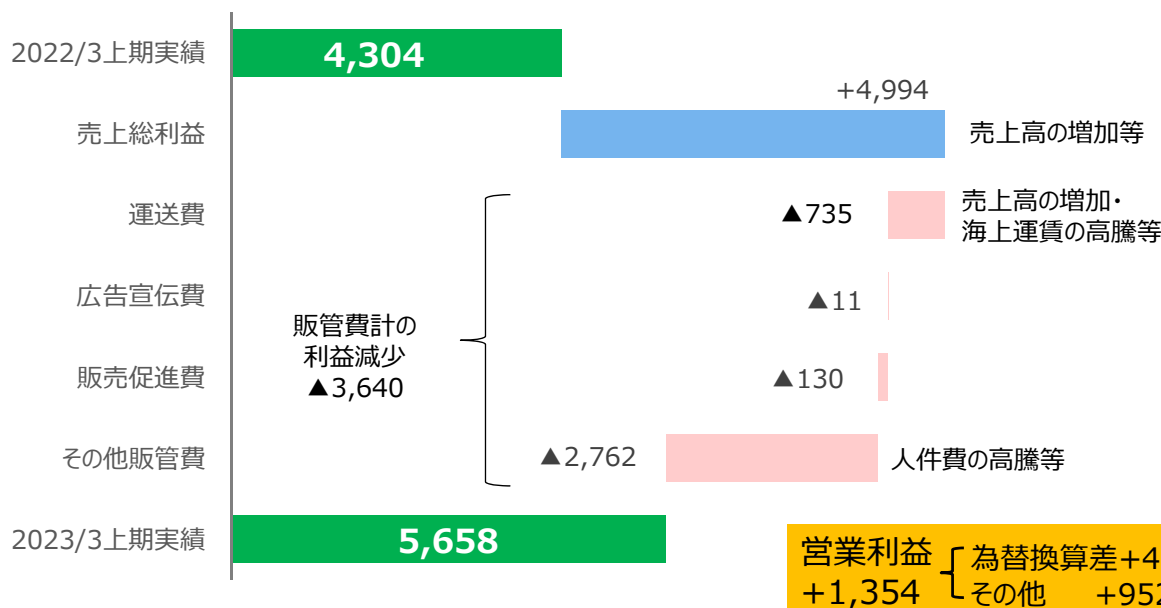
	2023年3月期 第2四半期実績	前期比		8/4予想比		為替レート影響額 前期比
		増減	率(%)	増減	率(%)	
海外酒類	8,287	1,282	+18.3	99	+1.2	856
海外日本食料卸	56,421	16,010	+39.6	▲36	▲0.1	4,811
その他	2,812	2,782	-	2	+0.1	▲141
連結消去	▲3,791	▲3,080	-	69	-	
売上高	63,730	16,995	+36.4	135	+0.2	5,525
売上総利益	19,981	4,994	+33.3	148	+0.7	
販売費及び一般管理費	14,322	3,640	+34.1	59	+0.4	
海外酒類	2,466	320	+14.9	134	+5.8	
海外日本食料卸	4,002	1,097	+37.8	▲36	▲0.9	
その他	2,232	2,724	-	3	+0.2	
連結消去	▲3,042	▲2,788	-	▲11	-	
営業利益	5,658	1,354	+31.5	88	+1.6	

2023年3月期 第2四半期（累計）宝酒造インターナショナルグループ 業績

営業利益は、売上高の増加による売上総利益の増加で、販管費による利益の減少を吸収することに加え、為替影響による換算差が寄与し増益

◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示）

（百万円）



- 2023年3月期第2四半期は、売上高は前年から増収となるも、営業利益、経常利益は減益。前期に製品自主回収による特別損失があり、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益。
- 国内事業はソフトアルコール飲料や原料用アルコールなどの増加や10月価格改定前の前倒し需要により前年から増収となるも、粗留アルコール等、原価のコストアップ等の影響により減益。
- 海外事業は海外日本食材卸事業、海外酒類事業ともに好調に推移し増益。
- バイオ事業は、一般研究用試薬が増加するとともに、新型コロナウイルス検査関連試薬が第7波の影響を受け増加したことで増収となるも、売上構成の変化等により原価率が上昇し、販管費も人件費および研究開発費等が増加したことで減益。

I. 2023年3月期 第2四半期決算 および 2023年3月期 通期業績予想

2. 2023年3月期 通期業績予想

2023年3月期 宝ホールディングス 通期 連結業績予想

連結損益計算書（売上高～親会社株主に帰属する当期純利益）

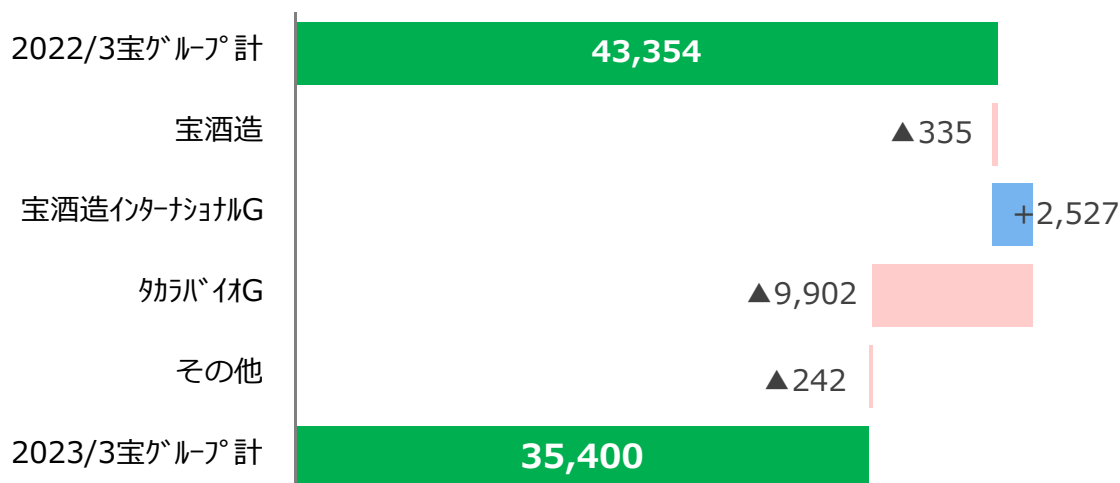
		2023年3月期		前期比		8/4予想比		為替レート 影響額
		通期予想	増減	率(%)	増減	率(%)	前期比	
	宝酒造	120,134	423	+0.4	353	+0.3	-	
	宝酒造インターナショナルグループ	136,907	34,720	+34.0	1,419	+1.0	15,666	
	タカラバイオグループ	77,800	10,100	+14.9	22,500	+40.7	4,254	
	その他	30,759	39	+0.1	▲291	▲0.9	-	
	調整額	▲18,600	796	-	1,019	-	-	
	売上高	347,000	46,081	+15.3	25,000	+7.8	19,921	
	売上総利益	118,000	4,458	+3.9	4,700	+4.1		
	販売費及び一般管理費	82,600	12,412	+17.7	1,000	+1.2		
	宝酒造	3,800	▲335	▲8.1	▲436	▲10.3		
	宝酒造インターナショナルグループ	11,000	2,527	+29.8	200	+1.9		
	タカラバイオグループ	19,000	▲9,902	▲34.3	4,000	+26.7		
	その他	2,344	121	+5.5	▲36	▲1.5		
	調整額	▲744	▲364	-	▲28	-		
	営業利益	35,400	▲7,954	▲18.3	3,700	+11.7		
	経常利益	36,000	▲7,230	▲16.7	3,700	+11.5		
	特別利益	1,000	▲3,658	▲78.5	750	+300.0		
	特別損失	300	▲6,628	▲95.7	150	+100.0		
	親会社株主に帰属する当期純利益	18,900	▲1,869	▲9.0	1,600	+9.2		

※前期の特別損失には、宝酒造の製品自主回収費用1,190百万円、タカラバイオグループの固定資産圧縮損4,470百万円を計上

2023年3月期通期業績予想（セグメント別営業利益対前期増減）

セグメント別の営業利益は、宝酒造インターナショナルグループが増益となるものの、宝酒造およびタカラバイオグループが減益となることで、宝グループ計でも減益となる見通し

◇営業利益の対前期増減（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示）



2023年3月期 宝酒造 業績予想

通期予想 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2023年3月期 通期予想	前期比		8/4予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
焼酎	35,454	▲ 2,481	▲ 6.5	131	+0.4
清酒	12,245	▲ 558	▲ 4.4	▲ 454	▲ 3.6
ソフトアルコール飲料	39,718	2,040	+5.4	▲ 483	▲ 1.2
その他酒類	5,246	▲ 221	▲ 4.0	507	+10.7
本みりん	9,103	5	+0.1	64	+0.7
その他調味料	8,727	166	+1.9	▲ 7	▲ 0.1
原料用アルコール等	9,641	1,472	+18.0	595	+6.6
売上高	120,134	423	+0.4	353	+0.3
売上総利益	27,940	▲ 871	▲ 3.0	▲ 937	▲ 3.2
販売費及び一般管理費	24,140	▲ 536	▲ 2.2	▲ 501	▲ 2.0
営業利益	3,800	▲ 335	▲ 8.1	▲ 436	▲ 10.3

2023年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 業績予想

通期予想 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2023年3月期 通期予想	前期比		8/4予想比		為替レート 影響額 前期比
		増減	率(%)	増減	率(%)	
海外酒類	17,944	3,880	+27.6	286	+1.6	2,238
海外日本食材卸	121,025	31,296	+34.9	1,007	+0.8	13,823
その他	2,843	2,780	-	3	+0.1	▲ 395
連結消去	▲ 4,906	▲ 3,237	-	122	-	
売上高	136,907	34,720	+34.0	1,419	+1.0	15,666
売上総利益	42,785	10,644	+33.1	753	+1.8	
販売費及び一般管理費	31,785	8,117	+34.3	553	+1.8	
海外酒類	4,953	1,171	+31.0	147	+3.1	
海外日本食材卸	7,831	1,718	+28.1	73	+0.9	
その他	1,527	2,460	-	▲ 1	▲ 0.1	
連結消去	▲ 3,312	▲ 2,824	-	▲ 19	-	
営業利益	11,000	2,527	+29.8	200	+1.9	

為替変動の影響

各通貨とも前期に対して円安を見込むが、宝酒造・宝酒造インターナショナルグループ合計では為替変動の影響は軽微

◇主な為替の状況（対前期）

	前期実績	今期予想	差異	※参考 期初予想
米ドル/円	109.90	131.80	21.90	113.0
ポンド/円	151.17	158.60	7.43	152.0
ユーロ/円	129.91	137.00	7.09	129.0

◇宝酒造・宝酒造インターナショナルグループの為替感応度

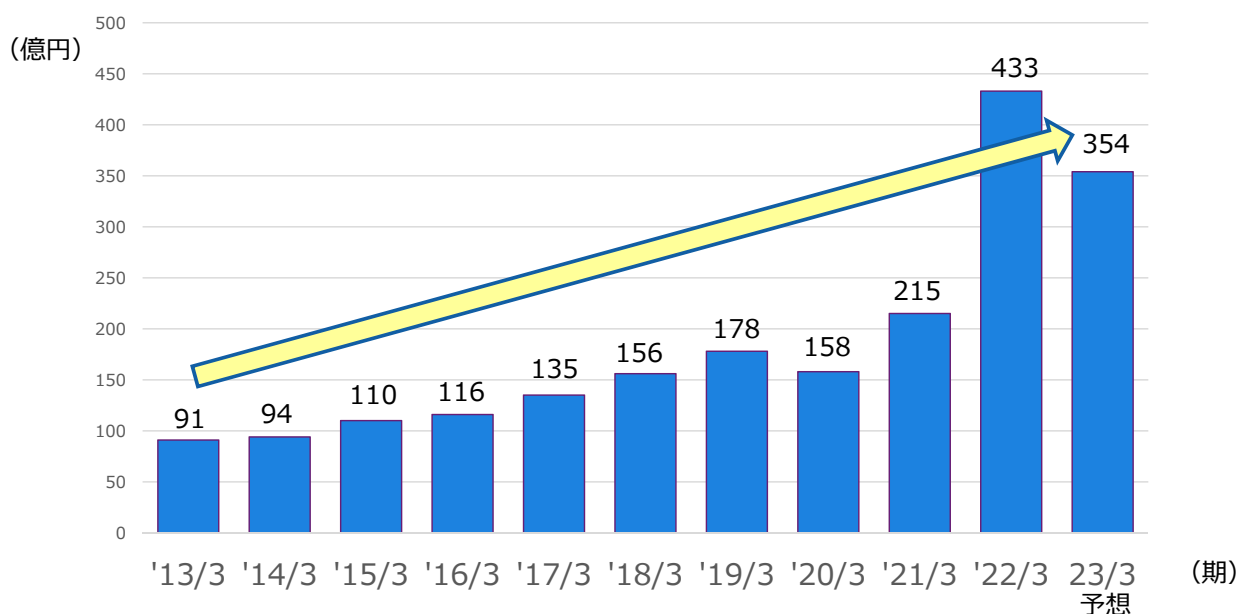
(百万円)

	米ドル1円変動時の 当期の営業利益への影響
宝酒造	▲72
宝酒造インターナショナル グループ	+90
合計	+18

2023年3月期 宝ホールディングス（連結）業績予想

2023年3月期は新型コロナウイルス関連の需要変動もあり減益となるが、長期的には着実に成長している

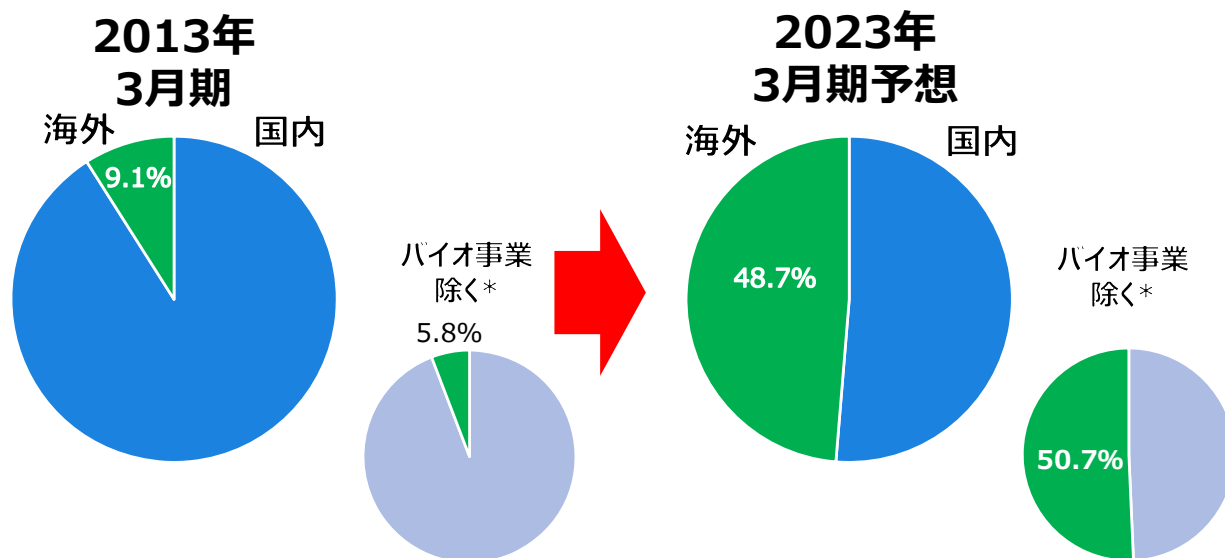
◇営業利益推移



海外売上高比率の変化

宝グループの海外売上高比率は、2013年3月期の9.1%から大きく拡大し、2023年3月期は48.7%へ。バイオ事業を除いた海外売上高比率は50%を超える見通し

◇宝グループの海外売上高比率



* 宝グループからバイオ事業をひいたもの

II. 2023年3月期 事業戦略

1. 宝酒造インターナショナルグループ

2023年3月期事業戦略（宝酒造インターナショナルグループ）

世界の和酒・日本食におけるリーディングカンパニーを目指し事業の拡大を加速

2023年3月期予想 売上高1,369億円 営業利益110億円

- 海外日本食材卸ネットワークの拡充や新商品開発で成長を加速
- 飲食店市場での“強み”を活かすとともに、小売・ネット等、販売チャネルの多角化を強化・継続
- コンテナ不足による物流不安や、人件費や物流費の高騰といった喫緊の課題を克服し、利益を創出する体質へ進化
- 安全安心な品質管理の徹底
- 日本の食文化の情報発信と啓発活動

2023年3月期上期概況と通期戦略（宝酒造インターナショナルグループ）

2023年3月期 上期概況

- 売上高は、料飲店市場の好調や、小売店やネット通販などの販売チャネルの多角化が進展したことで、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに好調に推移したことに加えて、為替も寄与し、全体で対前期で増収となった。
- 営業利益では、海上運賃などのコストアップに適正な価格政策で対応し、売上高の増加による売上総利益の増加に加えて、為替の影響もあり、対前期で増益となった。

2023年3月期 通期予想

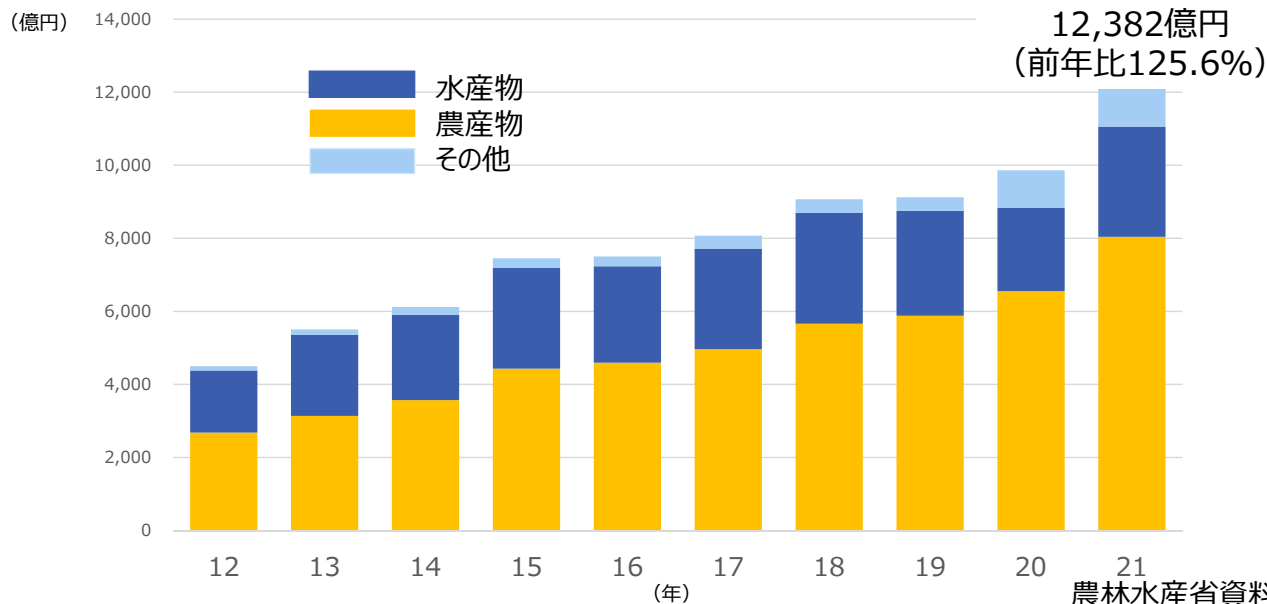
- 売上高は、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに物価高騰などの影響を受ける懸念はあるものの、対前期で増収となる見通し。
- 営業利益は、人件費などのコストは上昇するものの、売上高の増加により、売上総利益が増加し、対前期で増益となる見通し。
- 売上高はほぼ8月4日予想通りとなる見通しで、営業利益は、売上総利益率の改善により、予想を上回る見通し。

輸出市場の伸長

海外日本食市場

農林水産物・食品の輸出額は年々右肩上がりに増加。2021年は、コロナ禍からの回復の影響もあり前年比125.6%と大きく伸長している

◇農林水産物・食品 輸出額の推移

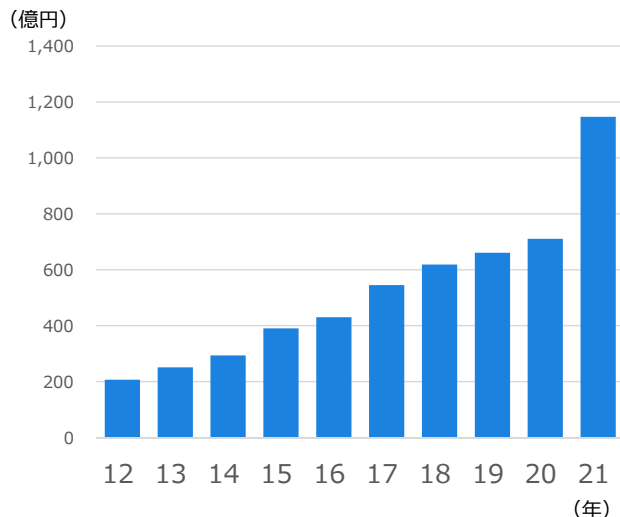


アルコール飲料・日本酒の伸長

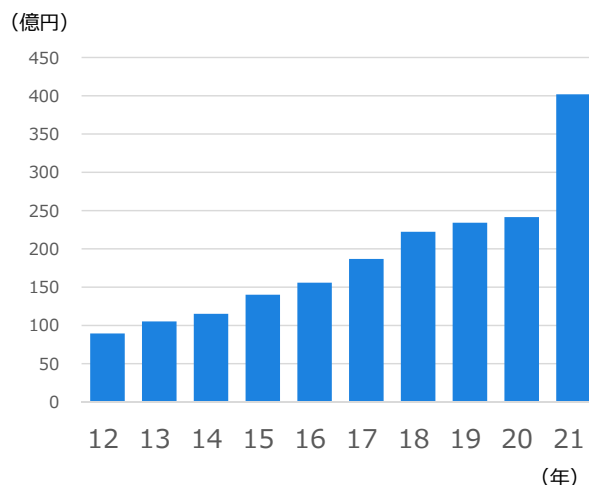
海外日本食市場

アルコール飲料も、同様の動きをみせており、さらに市場の拡大が見込まれる。日本酒カテゴリーにおいても同様に拡大

◇アルコール飲料 輸出額



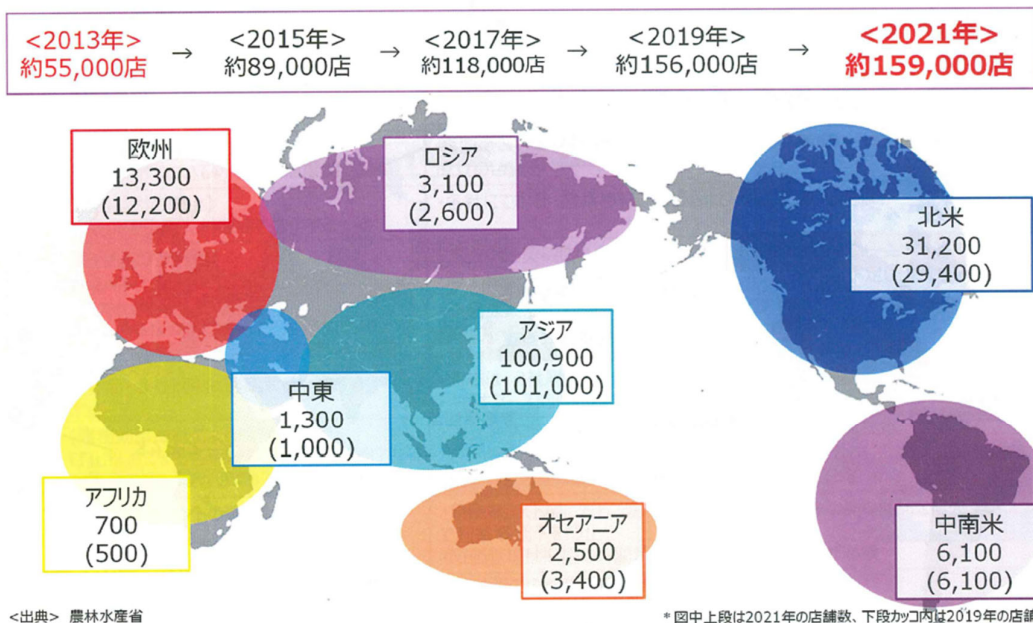
◇日本酒 輸出額



海外日本食レストランの伸長

海外日本食市場

世界における日本食レストラン数も、大きく伸長をしており、8年前の約3倍となっている



2023年3月期事業戦略（宝酒造インターナショナルグループ）

海外日本食材卸事業

2023年3月期予想 売上高1,210億円 営業利益78億円

1 海外日本食材卸ネットワークの拡充

- ・倉庫能力の拡充、資本提携等の推進

2 供給能力の向上

- ・顧客ニーズに即した商品調達と供給体制の整備

3 販売チャネルの多角化

- ・量販ルートおよびネット販売の強化・継続

4 高付加価値商材の品揃え強化

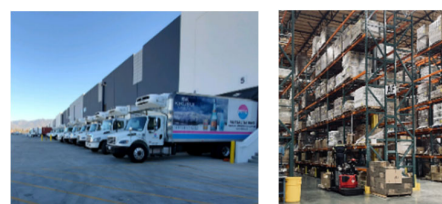
- ・日本の高付加価値商材の新規取り扱いを拡大

5 業務効率改善による販管費抑制

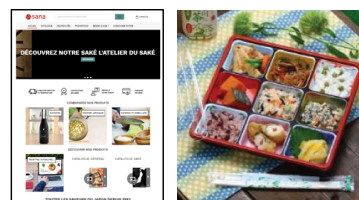
- ・IT化推進によるロジスティクスや業務の効率化

6 利益マネジメントの強化

- ・原価管理徹底によるタイムリーかつ適切な価格政策



ミューチャルトレーディング社本社・倉庫



ネット販売

テイクアウト商材提案



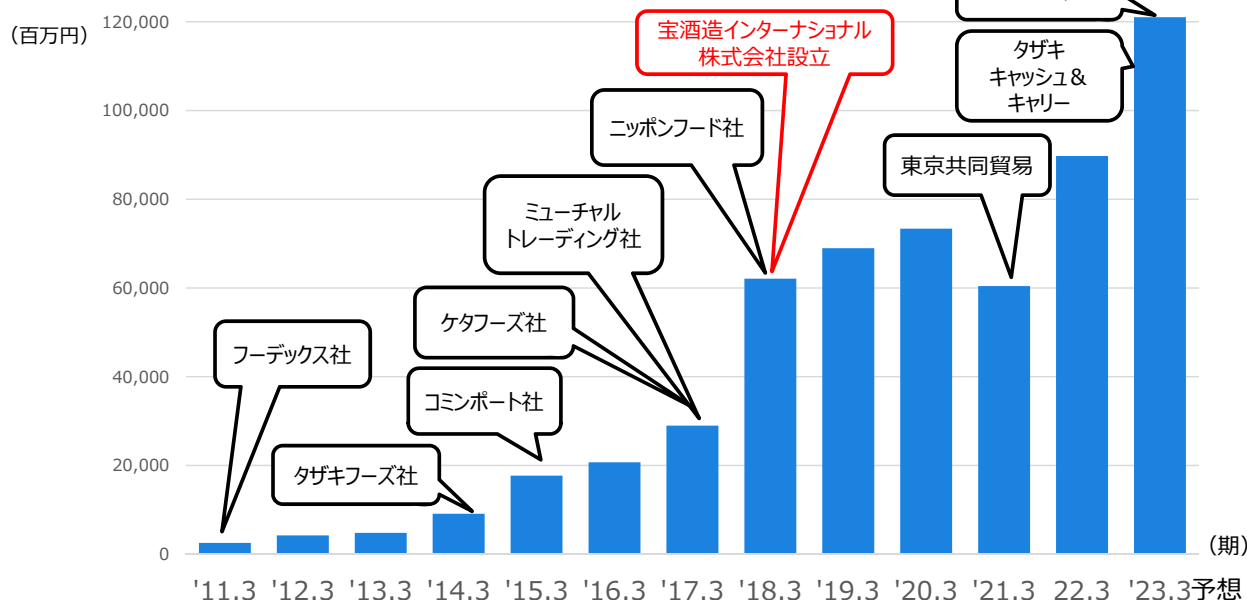
ヴィーガン対応商品

海外日本食材卸事業の売上高推移

海外日本食材卸事業

海外日本食材卸事業は2011年3月期の参入以来、世界的ネットワークを構築し、急成長

◇海外日本食材卸事業の売上高



日本食材卸網の拡充

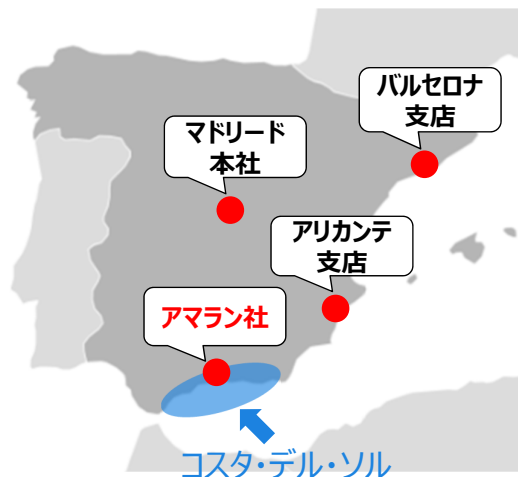
海外日本食材卸事業

海外日本食材卸ネットワークの拡大 <アマラン社>



スペインのコミンポート社がアマラン社の発行済株式100%を取得。世界的なリゾート地のコスタ・デル・ソル地区を始めとするアンダルシア地方をカバーし、スペイン全土の日本食市場を網羅（2022年10月取得）。

■スペイン・コミンポート社の拠点



日本食材卸網の拡充

海外日本食材卸事業

海外日本食材卸ネットワークの拡大 <タザキ・キャッシュ&キャリア>



イギリスのタザキフーズ社が中華・アジア食材のキャッシュ&キャリア・卸売事業を譲受し100%子会社としてタザキ・キャッシュ&キャリアを設立。小売業態への新たな事業展開に加え小規模レストラン需要も取り込む（2022年8月譲受）。



経営基盤の強化

海外日本食材卸事業

オーストラリアのニッポンフード社を100%子会社化するとともにミューチャルトレーディング社（アメリカ）・フーデックス社（フランス）等の設備を増強することで、経営基盤を強化

◇ニッポンフード社

発行済株式の49%を追加取得し100%子会社化。同社の成長の加速と経営の安定化をはかる（2022年9月取得）。

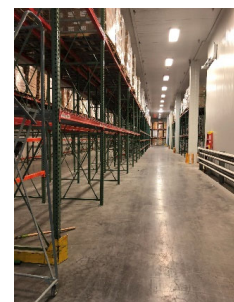


◇既存設備の増強

ミューチャルトレーディング社、フーデックス社の倉庫や冷凍・冷蔵設備を増強し、物流力を強化。



フーデックス社フランス・ブルージュ冷凍冷蔵庫



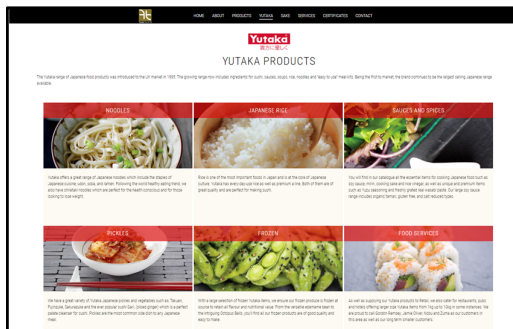
ミューチャルトレーディング社 米国・ニューヨーク倉庫

海外日本食材卸事業

従来の料飲店だけでなく一般スーパーやネット販売等の販売チャネルの多角化を進める



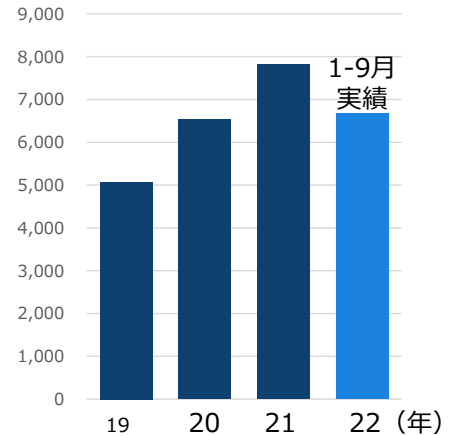
イギリスのスーパー



イギリス・タザキフーズのネット販売サイト

■ 海外日本食材卸事業の
小売店向け売上高推移

(百万円)



2023年3月期事業戦略（宝酒造インターナショナルグループ）

海外酒類事業

2023年3月期予想 売上高179億円 営業利益49億円

1 和酒

- ・“日本産”と“現地産”の戦略的な品揃えで、グローバル和酒No. 1 企業としての地位をゆるぎないものにする
- ・輸出事業を拡大
- ・量販ルートおよびネット販売の強化



松竹梅白壁蔵「滯」



和りきゅーる

2 洋酒

- ・旺盛なウイスキー需要に応え、着実に売上、利益を拡大
- ・高付加価値ボトル商品の販売強化とブランド価値の向上



トマーチン1977



ブラントン

3 商品開発

- ・市場環境やニーズを捉えた海外専用商品の開発
- ・“現地産”ならではの新機軸商品等の開発
- ・宝酒造、宝酒造インターナショナル、現地法人の協業



「HANA」



「YUKI」

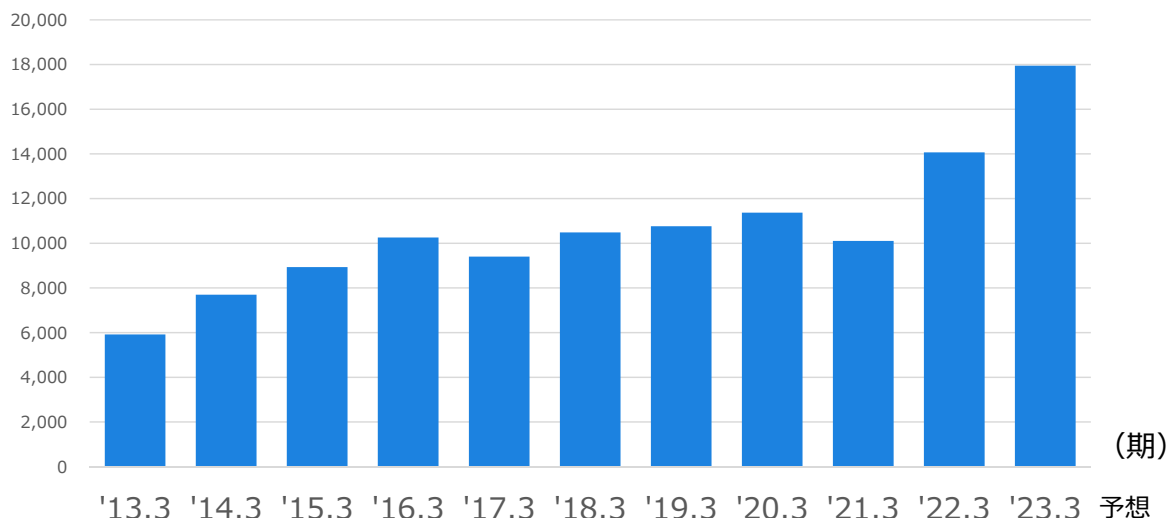
海外酒類事業の売上高推移

海外酒類事業

海外酒類事業は、コロナ禍の影響を受けたものの、中長期的には安定的な成長をつづけている

◇海外酒類事業の売上高

(百万円)

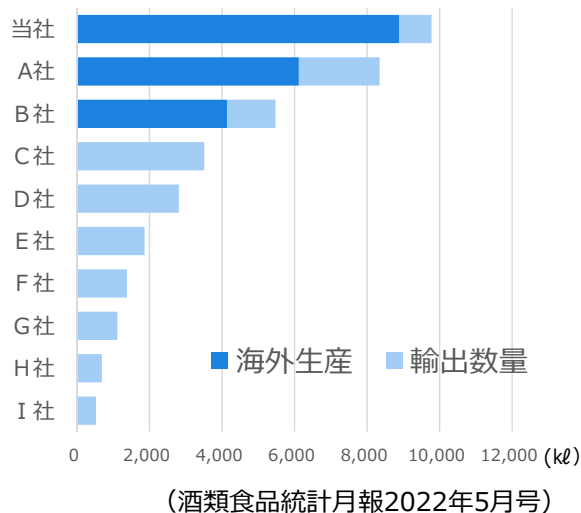


輸出事業の強化

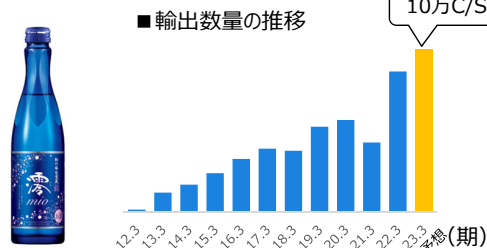
海外酒類事業

宝酒造インターナショナルは海外清酒市場No.1。スパークリング清酒「澗」が大きく伸長し今期10万ケースを見込む。地域の需要にあわせた輸出専用新商品の開発も進む

◇主要清酒メーカーの海外生産及び輸出数量 (2021年)



◇松竹梅白壁蔵「澗」



◇輸出専用商品



米国向け
2022年8月
新発売

松竹梅白壁蔵「至宝」



欧州向け
2022年9月
新発売

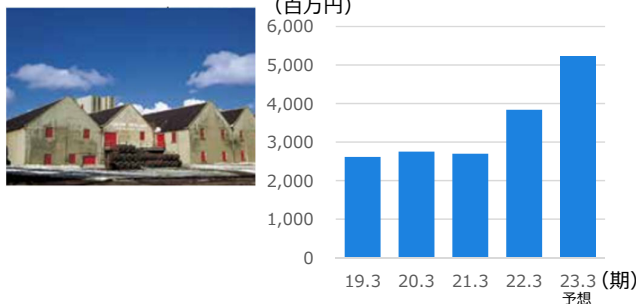
松竹梅「Kaori」

ウイスキー事業の強化

海外酒類事業

世界的なウイスキー人気により売り上げも好調。世界的なコンペティションにて最高金賞を受賞。トマーチンでは高付加価値ウイスキー白河1958を発売

◇トマーチン（スコットランド）



◇エイジ・インターナショナル（ケンタッキー）



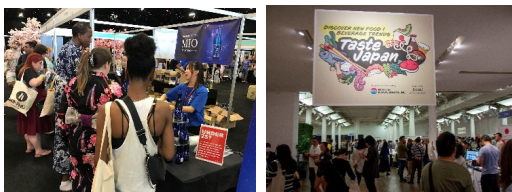
和酒・日本食の文化発信

海外日本食材卸事業・海外酒類事業

世界各地で和酒・日本食の文化を発信

◇イベントでの情報発信

展示会の主催・出展による和酒・日本食文化の発信



英国Hyper Japan 米国Taste Japan

◇和酒ソムリエ

和酒ソムリエによる和酒の情報発信や提案



タザキフーズ社 フーデックス社

◇Sakeミュージアム・テイastingセミナー

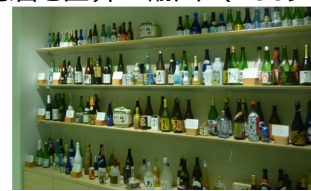
Sakeミュージアムやテイastingセミナーで文化発信



Sakeミュージアム テイastingセミナー

◇東京共同貿易による地酒の発信

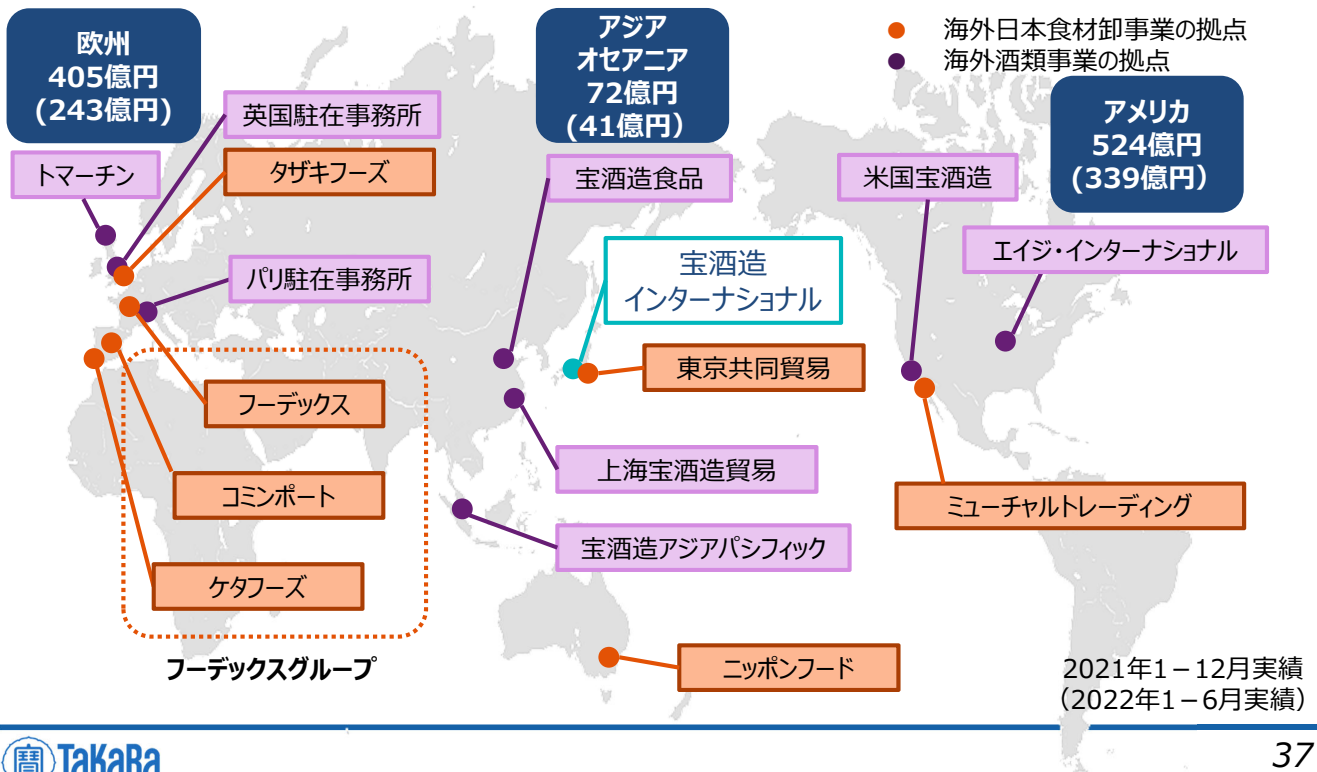
長年、地酒を世界へ輸出（100ブランド以上）



東京共同貿易のショールーム

(参考) 宝酒造インターナショナルグループの拠点一覧とエリア別売上高

海外酒類事業・海外日本食材卸事業ともにグローバルに展開



II. 2023年3月期 事業戦略

2. 宝酒造

2023年3月期事業戦略（宝酒造）

高利益商品の開発と利益マネジメントにより和酒No.1企業としての地位を盤石化する

2023年3月期予想 売上高1,201億円 営業利益38億円

- 焼酎ハイボールの拡大
- 消費者に支持される差異化ポイントを付与した新商品の開発
- 高利益商品の育成によるプロダクトミックスの改善、価格改定等の取り組みによる利益率の向上
- 安全・安心に向けた取り組みの強化
- 将来の事業の柱として「輸出」の拡大

2023年3月期上期概況と通期予想（宝酒造）

2023年3月期 上期概況

- 売上高は、10月価格改定による前倒し需要もあり、焼酎やソフトアルコール飲料、本みりん、原料用アルコール等の増加により、対前期で増収となった。
- 営業利益は、6月の価格改定やコストダウンに取り組んだものの、原材料や燃料の高騰によるコストアップを受けて、対前期で減益となった。

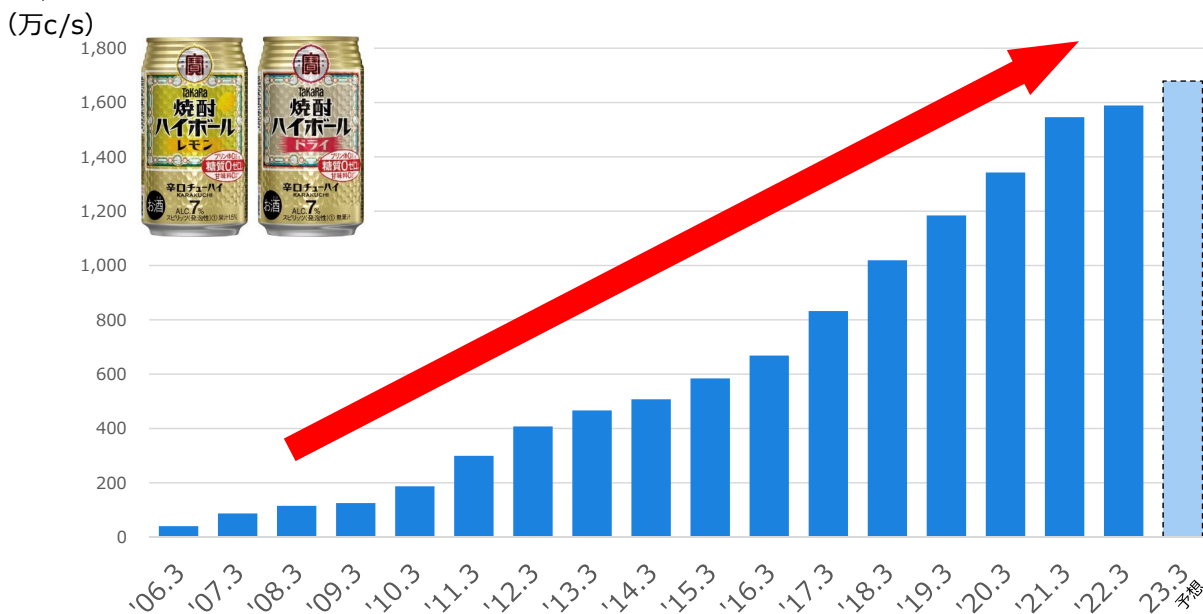
2023年3月期 通期予想

- 売上高は、ソフトアルコール飲料や原料用アルコール等が増加し、価格改定による販売影響が大きい焼酎の減少などを補い、全体では前期実績及び8月4日予想並となる見通し。
- 営業利益では、6月・10月の価格改定やコストダウン、経費削減に努めるものの、コストアップ影響が大きく、対前期で減益となり、8月4日予想を下回る見通し。

焼酎ハイボールの拡大

辛口の味わいや糖質ゼロが支持され、タカラ「焼酎ハイボール」は発売以来17年連続で伸長。KSP-POS※では直近16か月連続（21年6月～22年9月）でレモン500mlが売上No.1を達成（スピリッツカテゴリー・全国） ※KSP-SP社が提供する国内最大級の食品POSデータベース

◇タカラ「焼酎ハイボール」販売数量の推移



消費者に支持される差異化ポイントを付与した新商品の開発

キレのある味わいと飲みごたえが楽しめる辛口ノンアルコールチューハイ“タカラ「辛口ゼロボール」”を新発売。春夏に発売した清酒・焼酎の新製品も育成が進む



◇タカラ「辛口ゼロボール」

アルコール分：0.00%
 “タカラ「焼酎ハイボール」エキス”を新たに開発し使用。
 キレのある辛口の味わいで、しっかりとした飲みごたえとお酒感を実現したノンアルコール飲料。
 10月4日新発売。



◇松竹梅「昴」＜生貯蔵酒＞

味わいが好評で、新規導入・配荷拡大が進む。CVSルートにも進出。料飲店ルート限定の小瓶も新発売。



◇全量芋焼酎「ISAINA」

この秋から量販ルートでの新規取り扱いや配荷拡大、さらに大手居酒屋チェーンへの新規導入が進む。



松竹梅白壁蔵、一刻者の高付加価値商品を特別限定販売しブランド価値を高める

◆松竹梅白壁蔵「蔵出直送」
チルド便氷点下貯蔵酒



氷点下に管理された氷室蔵でじっくり貯蔵した特別な日本酒を3回に分けてお届け

◆全量芋焼酎「一刻者」
宮崎黄金千貫一年甕貯蔵原酒



限定生産の「一刻者」を甕オーナー制度で販売

トピックス：食品産業功労賞の受賞

「チューハイを活用した国産果実の栽培振興」が評価され、食品産業新聞社第52回「食品産業技術功労賞」の「地域創生部門」にて受賞

<受賞理由>

FARMER's STORY「京檸檬サワー」

生産数量が少なく、かつ高コストになりがちな希少な国産果実を様々な形で積極的に利用することで、各地の果実栽培農家を支援することに加え栽培およびブランド化にゼロから協力。商品の売り上げの一部をレモンの苗木500本分の購入費用として寄付し、地域に貢献。



タカラcanチューハイ「すみか」

捨てられるはずだった国産果実の果皮も含めて利用することで栽培農家の収入増にもつながっている。

寶CRAFT

各地でお土産物としての地位を確立し、「ここでも買えないご当地需要」を獲得することで地域活性化に貢献。コロナ禍を乗り越え出荷数量も拡大傾向にある。(2022年10月末時点40アイテム)



価格改定の状況

コストアップ対策として、6月1日と10月1日に価格改定を実施

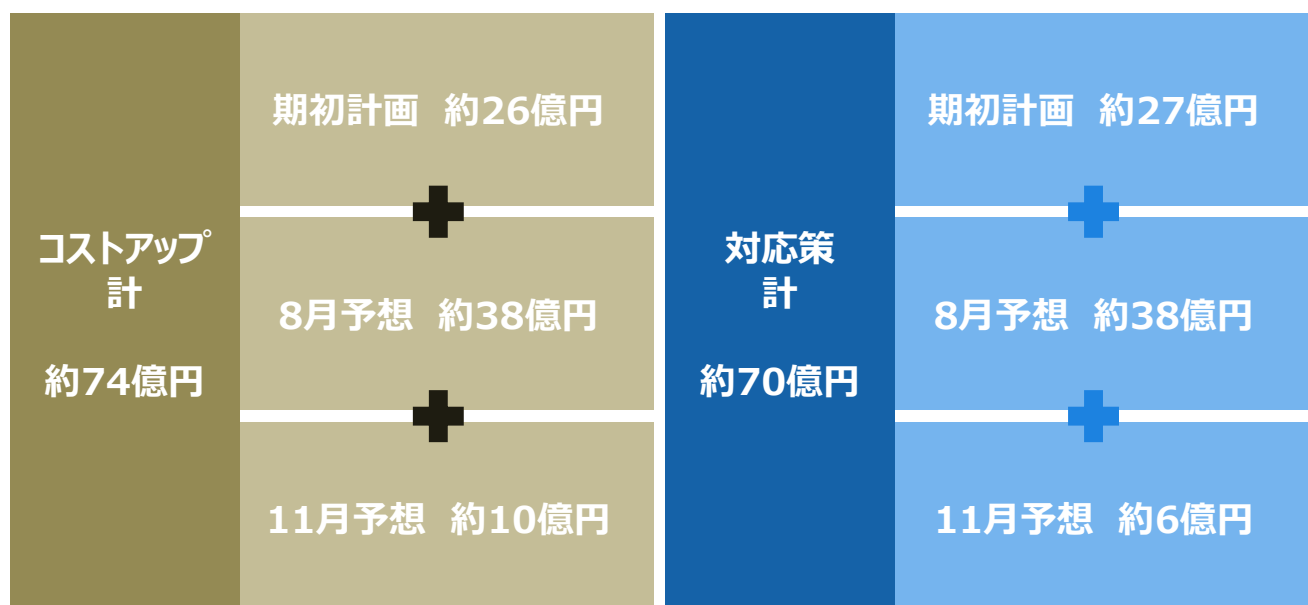
◇主要対象カテゴリーと価格改定率

カテゴリー	6月		10月	
	焼酎	甲類焼酎	1～8%	全アイテム
清酒	—	—	全アイテム	1～11%
ソフトアルコール飲料	焼酎ハイボール、お茶割り等一部	1～2%	全アイテム	1～10%
本みりん	—	—	全アイテム	1～12%
料理清酒	—	—	全アイテム	1～7%
輸入酒	—	—	中国酒・洋酒の一部	1～9%

コストアップと対応策

コストアップの影響を各種の対応策を投入することで補完する

◇コストアップと対応策



※主な対応策：価格改定、コストダウン、新商品開発等

「日本食」に加えて日本伝統のお酒である「和酒」の
おいしさを伝えることで日本食文化を世界へ

宝酒造株式会社

宝酒造インターナショナル株式会社

商品開発力
技術力 育成力



展開力
提案力 物流力

世界における和酒・日本食のリーディングカンパニーを目指す

II. 2023年3月期 事業戦略

3. 宝グループのサステナビリティ

サステナビリティの主な取り組み事例（宝ホールディングス・タカラバイオ）

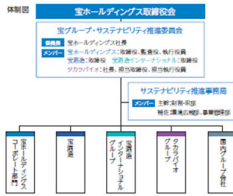
TCFDフレームワーク（気候変動が事業に及ぼす影響について開示をするためのフレームワーク）に基づく開示

TCFDフレームワークに基づく開示

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の持続性を両立させる重要な課題のひとつと位置づけ、積極的に取り組みを進めています。当社グループでは、気候変動が事業の持続性に与える重要な影響を認識し、気候変動財務情報開示タスクフォース（TCFD）のフレームワークに沿って現状と対応を進めるとともに、関連する情報の開示を行いステークホルダーの皆様と対話を続けていきます。

ガバナンス

宝グループでは、取締役会の監督のもと、宝ホールディングス代表取締役社長を委員長とした「宝グループサステナビリティ推進委員会」を設置し、気候変動が事業に与えるリスク・機会の評価や戦略の策定、目標などについて審議を進めています。また、宝グループサステナビリティ推進委員会の下部組織として気候変動開示に特化した「サステナビリティ推進事務局」を設置しています。サステナビリティ推進事務局は、サステナビリティ推進委員会の決定に基づいて、グループ各社の具体的な活動の促進、実行を推進します。これらの気候変動開示を宝グループサステナビリティの取り組みは、宝グループサステナビリティ推進委員会が取締役会に報告します。



リスク管理

宝グループでは、当社グループの事業が気候変動によって受ける影響を検討するに当たり、温室効果ガス排出量のウエイトが高い国内事業（宝酒造株式会社）を対象に、リスクと機会を特定しました。特定のプロセスとしては、移行リスクや物理的リスクについて、専門家の意見や公表されているレポートなどを参考に、想定されるリスク・機会を抽出し、影響を受ける可能性や大きさを考慮し、短期・中期・長期の時間軸で影響が大きいと想定されるリスク・機会を抽出し、特定されたリスク・機会の内容とその対応策は、サステナビリティ推進委員会が取締役会へ報告します。

戦略・シナリオ分析

宝グループでは、国内事業（宝酒造株式会社）を対象に、気候変動リスク・機会による事業への影響の把握、対応策の検討のためのシナリオ分析を実施しました。

なお、この分析にあたりIPCC（気候変動に関する政府間パネル）のAR5によるRCP2.6（2℃未満シナリオ）及びRCP8.5（4℃シナリオ）、IEA（国際エネルギー機関）のWECによるSS5シナリオ（2℃未満シナリオ）を参照し、気候変動による影響を分析・検討しました。

- 移行リスク** 気候変動が2℃未満に超えれば、カーボンニュートラル達成に向け厳しい環境規制が導入されるなか、炭素税の導入による原料・包材材の価格高騰や、エネルギーコスト増により事業が大きな影響を受けます。
 - 物理的リスク** 気候変動が4℃程度となり、海面上昇による高潮や洪水の被害、また、洪水による製造拠点等の被害は事業に大きな影響を与えます。さらに、気候変動により、原材料である農作物の収量が大きな影響を受けることが分かります。
 - 機会** 省エネ設備の導入等省エネ推進によって事業コストが低減することや、エシカル消費需要やエコ製品需要の高まりは、当社にとって機会になると考えています。
- ※ 後は、継続的にリスク・機会の見直しや対応の具体化を進め、中長期的経営戦略に反映させることで戦略のレジリエンス向上を図ります。

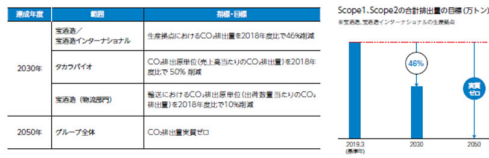
気候変動による事業リスクと機会

リスク	内容	時間軸*	影響度**	対応
移行リスク	気候変動による原料・包材材のコスト増	短期	高	- サプライズ管理や削減のための管理計画への対応 - 削減計画（削減目標設定/削減計画等） - 削減計画へのイニシアチブ推進 - 包材材削減化/削減計画化/削減計画化
	気候変動によるエネルギーコスト増	短期	高	- CO2排出削減の取り組み推進、再生エネルギーの拡大 - エネルギーの削減 - 再生可能エネルギー利用の推進 - 太陽光発電の導入
物理的リスク	海面上昇による製造拠点被害	短期	高	- 生産拠点の分散化 - 大規模な被害が想定される拠点の移転/対策検討
	気候変動による製造拠点被害	短期	高	- 生産拠点の分散化 - 大規模な被害が想定される拠点の移転/対策検討

気候変動による事業リスクと機会

機会	内容	対応
省エネ設備導入によるコスト削減	宝酒造における省エネ設備の導入（ボイラーを省エネ型から天然ガスへ転換）	
省エネ推進によるコスト削減	事業コストの削減につながる省エネ設備の導入 宝酒造における省エネ型ボイラーの導入による省エネ設備の導入促進	
エコ製品需要（エシカル消費需要）の増加	エシカル消費需要に応じた商品開発（「エシカル」のコーヒ「EARTH」/「CRAFT」等） 環境負荷低減や削減計画への取り組み	

国内事業（宝酒造株式会社）の原材料使用で重ウエイトを占める3項目について気候変動による取組への影響を分析しました。4℃の気候変動下において、サトウキビでは収量増、トウモロコシでは収量減、水稲では収量が減少することが分りました。



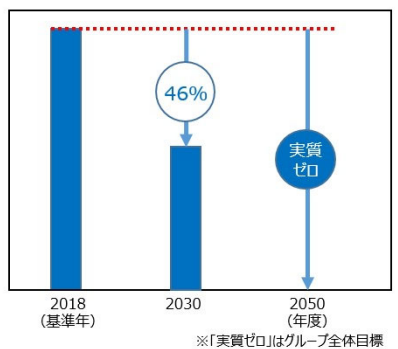
サステナビリティの主な取り組み事例（宝グループ）

サステナビリティ・ビジョンにおけるCO2排出量削減目標の達成にむけて、CO2排出量削減ロードマップを作成

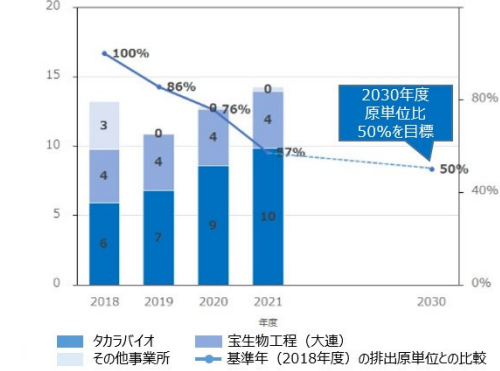
サステナビリティ・ビジョン

2030年度	<ul style="list-style-type: none"> 宝酒造・宝酒造インターナショナルグループの生産拠点におけるCO2排出量を2018年度比で46%削減 タカラバイオグループのCO2排出原単位（売上高当たりのCO2排出量）を2018年度比で50%削減
2050年度	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体でCO2排出量実質ゼロ

○宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの生産拠点の排出量目標 ※Scope1,Scope2



○タカラバイオグループの排出量目標（原単位） ※Scope1,Scope2



サステナビリティの主な取り組み事例（宝酒造）

ノンアルコール飲料の開発・料理清酒の食塩ゼロ訴求

◇ノンアルコール飲料

■タカラ「辛口ゼロボール」



キレのある味わいと飲みごたえが楽しめる辛口タイプのノンアルコール飲料。アルコール分0.00%、カロリーゼロ、糖質ゼロ、甘味料ゼロ、プリン体ゼロ

◇料理清酒の食塩ゼロ訴求

■タカラ「料理のための清酒」



加塩料理酒が全体の65%を占めている市場で、セミナーやキャンペーンなどで「食塩ゼロ」を訴求し、減塩を啓発。「糖質ゼロ」タイプも開発。

サステナビリティの主な取り組み事例（タカラバイオ）

抗原簡易検査キットを発売。国内における安定供給を通じて、課題となっている供給不足を解消し、新型コロナウイルス感染症対策を支援



「HEALGEN COVID-19 抗原迅速テスト」（一般用）

笑顔で繋がる豊かな暮らしを

世界の人々に和酒・日本食を通じて豊かな食生活を、さらにバイオ事業により健康的な暮らしに貢献することで「笑顔で繋がる豊かな暮らしを」実現していく

宝ホールディングス株式会社

宝酒造株式会社
宝酒造インターナショナル株式会社

タカラバイオ株式会社

人々の豊かな
食生活への貢献

医療・健康領域に
おける価値の創出

笑顔で繋がる豊かな暮らしを
～Smiles in Life～

将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

<お問合せ先>

宝ホールディングス株式会社
財務・IR部

E-Mail ir@takara.co.jp

TEL 075-241-5124